

社説

県花デイゴの選定

圧倒的に人気集中して、県花にデイゴが選ばれた。五十種類も集まった沖繩にある花のうちやはり王者の風格のあるデイゴに白羽の矢が立ったのはそれだけの理由がある。初夏の青い空の下に真紅の花弁をつけるこの豆科植物は、漆器の素材としても知られている。花の頃がおれば緑の葉を茂らし、かつ成長も早いことから緑化にとっても一役を果たそう。

さて、県花を選ぶ背景にはいろいろある。他県(本土)には県花として自慢の花があるのに、沖繩にはそれがなかった。肩身がせまいというより、沖繩の物産をPRするのにいささか不便であった。そのほか、沖繩を代表する花のな

いことは寂しいことである。それに最近、観光を重要産業として力こぶを入れている各県に比べ、沖繩を象徴する花を欠くことはなんといっても能のない話である。さいわい、デイゴは多くの人たちの支持で与望をになうことになった。

これからは、県花をどう活用するか、それぞれチエをしほることである。県花選定委員会(委員長 松岡政保主席)では、県花を集中的に植え名所をつくる。観光道路へ県花を植える。記念切手の発行。ハカキに県花を刷り込む。県花バッジの発行。このほか、薬団植樹(行政府としては一九六九年までに市町村をおしてデイゴ五十万本を植える計画である)など

を当面の目標にしている。

そのほかにも県花の利用度は広くかつ高いと考える。商標、商品のイメージづくり、あるいは、印刷物にも適切有効な使い方が出てくる。わけても観光産業との結びつきは工夫しただいでは大きな力を

發揮できよう。要は県花をどう生かすかである。県花の利用価値を十分發揮するには主として行政府、関係団体、市町村だが、これを選んだ多くの人たち、また県花を愛しそれを育てる住民個々の努力が必要であろう。